

I

出典『下流志向』（内田樹）講談社

「労働からの逃走」から、労働の人類学とニート問題について述べている部分です。長文ですが、さほど難解な文章ではありません。

問1 【漢字問題】（解答番号は1～10）

正答と正答率を示しておきます。

- a 清算（28%）
- b 表象（28%）
- c 愉悅（64%）
- d 食指（24%）
- e 富豪（96%）

問2 【文中の語句の意味の理解に関する問題】（解答番号は11）

正答は③です。正答率は44%でした。

問3 【空欄補充と文脈理解に関する問題】（解答番号は12・13）

どちらの空欄にも「ですから」という前置きがあるように、それ以前の段落で述べられてきたことから導かれる結論が入ります。また、その内容は空欄の直後の段落で言い換えて確認されています。

問4 【内容理解に関する問題】（解答番号は14）

前半で述べられていた「労働の人類学」をきちんと読み取ることが前提です。筆者は労働の本質は現代社会でも変わっていないとしています。それを誤解しているニートたちが労働についてどのように考えているのかは、三段落先に書かれています。正答は④です。76%の正答率でした。

問5 【内容理解に関する問題】（解答番号は15）

「彼らに言わせれば」で始まる段落の内容がヒントになります。正答は③です。正答率は74%でした。

問6 【指示語の内容を問う問題】（解答番号は16）

正答は③です。大方の受験者が正解でした。

問7【筆者の主張を読み取る問題】（解答番号は17）

筆者は、「二ートの発生が労働の本質についての「誤解」から発生しているということ
を誰も指摘してくれない」と述べ、傍線部の直前にも「根本の問題を見過している限り」
と条件をつけています。筆者は、労働の本質についての誤解が問題の根本にあるとみ
ており、問題の解決には、社会全体にその認識が必須だと思っていることが読み取れます。
労働の本質が何であるかは、この節の最初の段落にまとめられています。正答は②です。
筆者の思いを読み取るには文脈を丁寧に辿る必要があります。正答率は18%でした。

問8【指示語の内容を問う問題】（解答番号は18）

心理的な興味深さの内容が、指示語の後に述べられていることに注意しましょう。正答
は⑤です。正答率は74%でした。

問9【小見出しをつける問題】（解答番号は19）

本節は、前半は二ートの「誤解」や価値観を説明し、後半にIT長者が登場する構成で
す。前半の分量は多いがIT長者の価値観との共通性を導くのに必要な説明であり、その
価値観の共通性が意外な共感をもたらしたのだと筆者独自の分析を述べています。④が筆
者の発見であり、小見出しになります。他の選択肢はいずれも部分的です。正答率は12%
でした。

II

出典『怯えの時代』（内山節）新潮選書

正答率が低く説明が必要と思われる設問のみ解説しておきます。

問1【漢字問題】（解答番号は20、29）

正答と正答率を記します。

- a 詐欺（92%）
- b 収益（88%）
- c 制約（78%）
- d 浮遊（90%）
- e 平穩（90%）

問6【内容把握問題】（解答番号は37）

正答は④フランスの伝統的労働観です。「長期的な悪に転ずるという構造」に最も当てはまらないものですから、それについての善悪判断が、社会の変化や立場の違いによって最も影響を受けず、変わりにくいものを選びます。正答率は58%でした。

問7【主張の主旨理解問題】（解答番号は38）

正答は②の悪についての考え方は共有できない、という選択肢です。問題文の最後に、多くの人が共有できる悪の定義の必要性が訴えられていて、②とは矛盾します。半数以上の人が、⑤の悪の定義は自然の有限性を基盤にすべき、を選択しています。しかし「自然の有限性という問題」について繰り返し触れられていますから、⑤は主張の一部と読み取れ、合致しないとは言えません。正答率は12%でした。

問8【表題付け問題】（解答番号は39）

筆者は最後のまとめの個所で、しのびよる巨大な悪にどう対処すべきかを二十一世紀の時代的要請ととらえています。その前提として現代における悪の定義の重要性を説いていて、一種の時代診断の意味が優先されています。正答の次に多かった、②本当の豊かさや④ふたつの時間スケールは、主題というより時代診断の道具的役割しか果たしていません。正答率は36%でした。